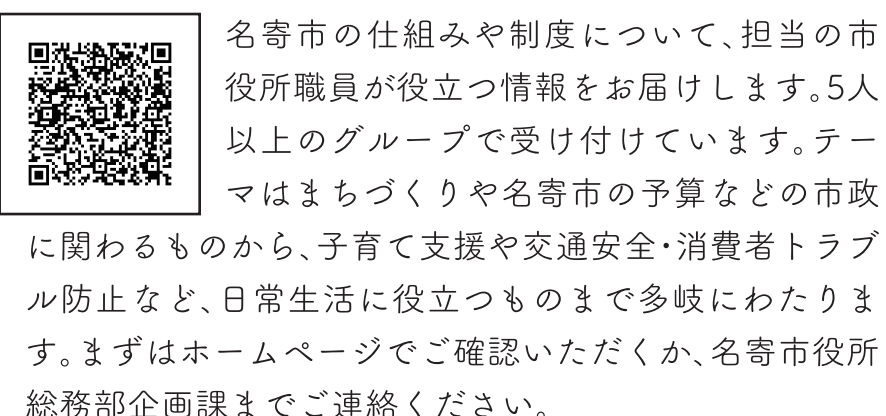
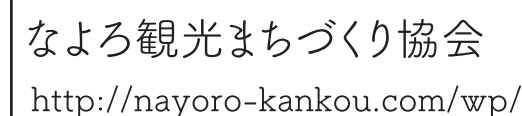


もっと名寄市を知りたくなったら…

NEXT
10
years

出前トーク



 名寄市では、市の基本的な政策となる計画や条例を策定する前に、その案を公表し市民が意見を言える制度を設けています。それがパブリック・コメント手続きです。広報なよろやホームページなどで随時募集がありますので、チェックしてみましょう。

情報提供スペース

※これらは公共施設、店舗
などで入手できます。

駅前交流プラザ「よろーな」
市民文化センター
ふうれん地域交流センター「風っ子ホール」
総合福祉センター 図書館 など



発行元 北海道名寄市

〒096-8686 北海道名寄市大通南1丁目1番地
tel : 01654-3-2111 email:nayoro@city.nayoro.lg.jp

Blue Print Of Nayoro City

2017-2026

名寄市総合計画 (第2次)ダイジェスト



Blue Print Of Nayoro City

いま、私たちが 名寄の未来をカタチにする。 2017 - 2026

人口減少、少子高齢化、地域経済の停滞、多発する自然災害、情報通信技術の革新、

まちづくりやコミュニティへの意識の高まり。

いま、時代はこれまでにないスピードで変化しています。

名寄市は2007年に策定された「新名寄市総合計画（第1次）」を経て、

2017年から「名寄市総合計画（第2次）」をスタートさせました。

この計画は、時代の変化に的確に対応し、改めて名寄市の将来像と目標を定めた、

名寄市の市政運営における最上位計画です。

2026年までの10年。

私たち一人ひとりの想いと行動が、名寄の未来をつくります。

総合計画とは

2010年に施行した「名寄市自治基本条例」では、行政運営の基本として総合計画の策定を義務付けています。本計画は基本構想、基本計画、実施計画で構成し、計画の期間を2017～2026年の10年間としています。総合計画の本編冊子（原本）は名寄市のホームページよりご覧いただくか、名寄市役所総務部企画課、図書館などで閲覧ができます。

🔍 名寄市 総合計画 第2次 🔍 検索



自然の恵みと財産を活かし みんなでつくり育む 未来を拓く北の都市・名寄

豊かな自然と先人により培われた歴史・文化を尊重し、市民と行政との協働により、故郷への誇りと愛着を育むとともに、新たな時代の中で、人や地域との絆を強め、これからも誰もが住み続けたいと思える北の未来を拓く都市を目指します。



Nayoro Quiz ナヨロクイズ

ここのコーナーでは、名寄にまつわるクイズを出していきます。答えは次のページをご覧ください。

Q1. 1900年、名寄を開拓した人たちはどの県から来たのでしょうか？

数字で見る名寄のいま

※2017年3月現在で把握できる数値を掲載しています。

2015年度に使われたお金は

230億4600万円

市民一人当たり

約80万円

一番大きなお財布「一般会計」の決算額です。この数年でエンレイホールや大学、小学校の改築などにより大きくなってきています。しかし、市民からの「市税」や、国からの「地方交付税」は今後少なくなっていく可能性もあり、適切な事業の選択が大切になります。

1人の女性が生む子どもは

1.52

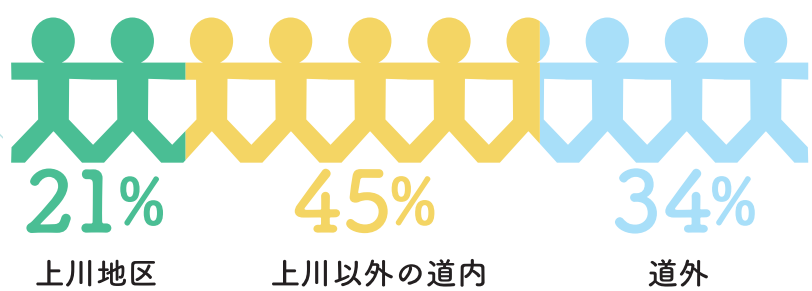
1人の女性が生涯に何人の子どもを生むかを表す「合計特殊出生率」は1.52。全国平均は1.38、北海道平均は1.25。道内の市では留萌市、根室市に次いで3番目に高い値です。

名寄市立大学在籍数は

703人

栄養、看護、社会福祉、社会保育、児童学科からなる本大学の学生の21%が上川地区の出身です。卒業生のうち23%が上川地区に就職しています。

入学者



観光客は

約47万人

道内からの観光客は8割、日帰り客は9割を占めています。

町内会の加入者割合は

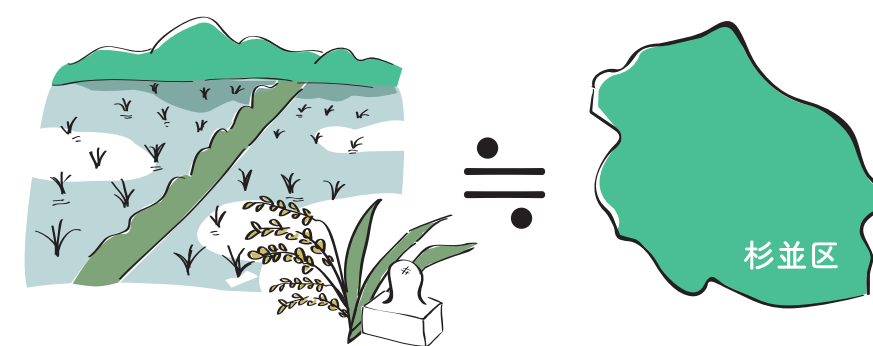
78.1%

市内には81の町内会があり、小学校区を基本とした7つの地域連絡協議会が組織されています。

もち米の作付け面積日本一

3,245ヘクタール

この広さは東京都杉並区とほぼ同じ大きさです。名寄のもち米は、伊勢名物の「赤福」をはじめさまざまな商品に使用されています。ほかにもアスパラやスイートコーン、かぼちゃなど日本でもトップクラスの生産量と質を誇ります。



商店数は

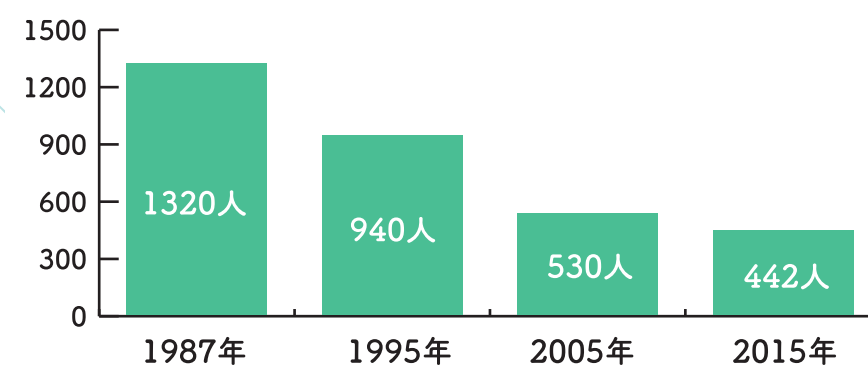
363店舗

卸売業が71店、小売業が292店舗あります。また、飲食・宿泊業は216店です。

名寄駅の乗車数は

1日442人

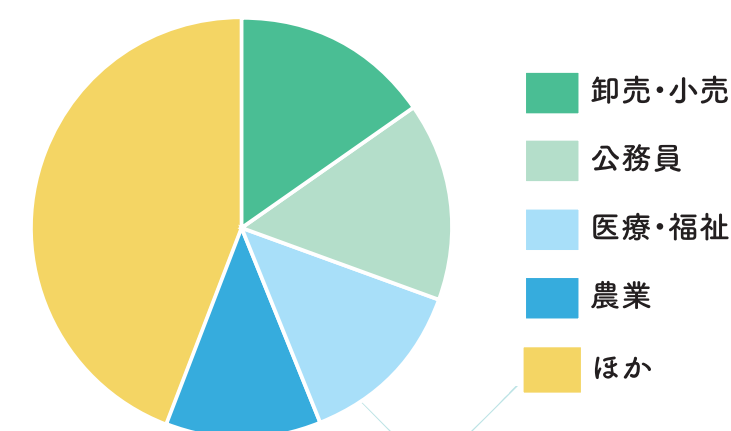
乗車数は年々減少しています。



医療・福祉関係の従事者数は

1,922人

就業者数は全体で14,716人。卸売・小売業従事者が2,282人、公務員は2,222人、農業従事者は1,837人、建設業が997人です。



市が所有する施設は

766

施設の総面積の30%が学校など、22%が公営住宅です。文化・教育やスポーツなどの市民が広く利用する施設は17%です。建築後30年以上が経過したものは全体の42%（面積あたり）と老朽化が進んでいます。

A1.

山形県。開拓地となった曙地区には今も「山形神社」があります。風連地区は富山県から、智恵文地区は青森県から来ています。

Q2. 「電話」が名寄で開通したのは何年でしょう？

人口から見る、名寄の課題

2040年には24,610人。高齢化率は32.9%。

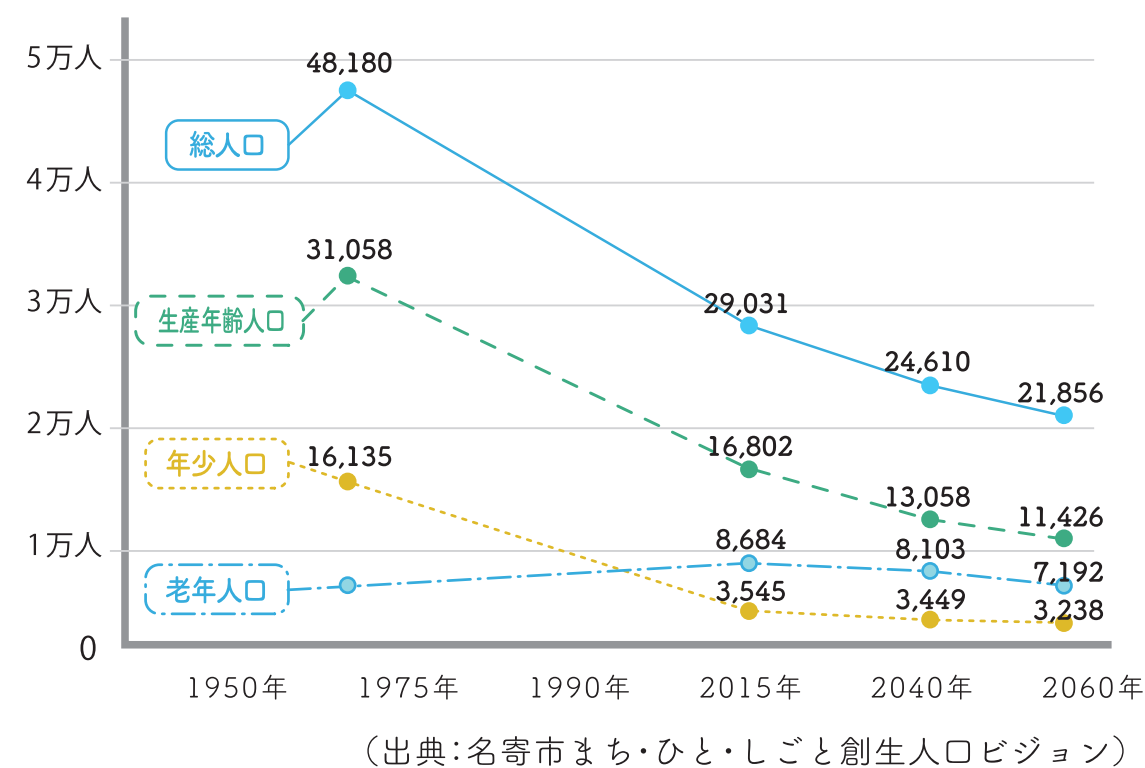
名寄市の人口は、1960年の48,000人をピークに減少の一途をたどっています。加えて少子高齢化も進み1980年には5人で1人の高齢者を支えていましたが、現在は2.3人で1人、2040年には1.6人で1人を支える計算となります。

人口減少や少子高齢化が進むと、街にあったお店やサービスがなくなったり、近所や町内会などで持ち回りでやってきた活動が維持できなくなる可能性が高まります。

人口減少は避けられないため、人口減少をいかにゆるやかにするか、人口が減っても幸せに生活できるまちをどうつくっていくかを、市民と行政がともに考えていく必要があります。

※「生産年齢人口」 15歳以上65歳未満が対象
「年少人口」 15歳未満が対象
「老年人口」 65歳以上が対象

名寄市の人口推移

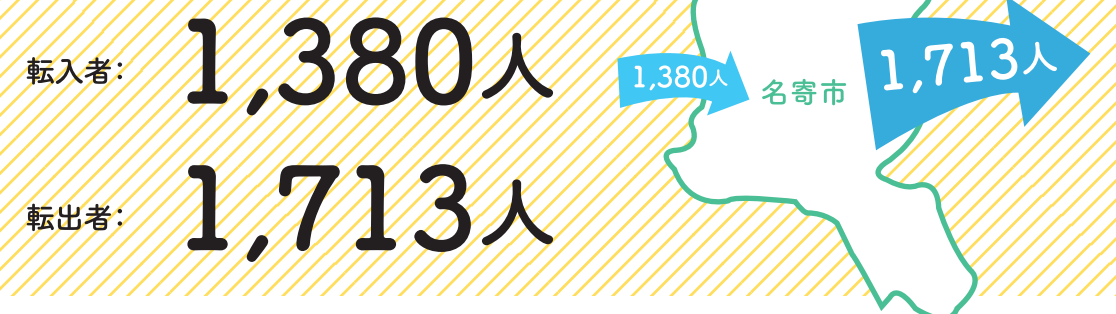


どうして人が減るのだろう？

人口減少をゆるやかにするためには、名寄市の人口が減る理由を知っておく必要があります。自然減（生まれてくる人より亡くなる人が多いこと）は全国的な課題ですが、名寄市はさらに、社会減（引っ越してくる人より出ていってしまう人が多いこと）が人口減少に大きく影響しています。

18～22歳（高校卒業・大学卒業）の転出者は300人ほどですが、この世代は名寄駐屯地への入隊や名寄市立大学への入学などで転入者もほぼ同数です。しかし、20～30代前半の転出超過（転入者よりも転出者が多いこと）が大きくなっています。

社会減



自然減



(2015年度の住民基本台帳より)

人口が減少すると起きること

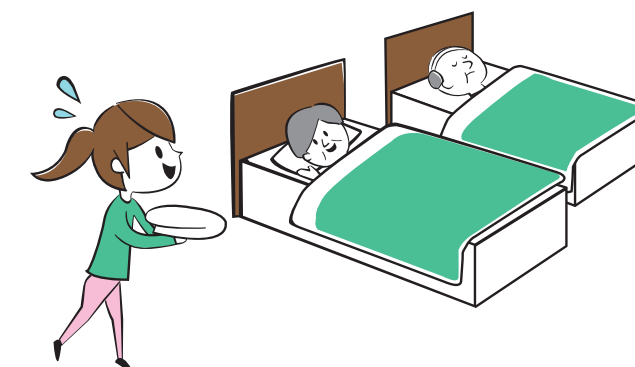
「いつものあのお店」がなくなるかも？

名寄市や近隣自治体の人口が減ると、市内の飲食店やお店に買い物に来る人が減り、結果としてお店や商業施設が閉店、撤退する可能性が高まります。



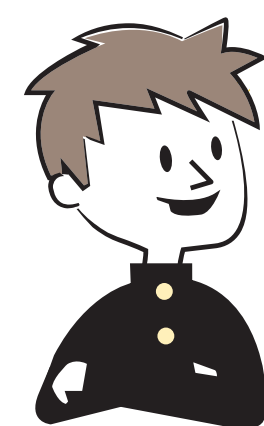
福祉施設はあるけど、職員が足りない?!

安心して健やかに生活を送るには、医療・福祉施設は欠かせません。名寄市は現在、医療・福祉分野の環境が充実していますが、サービスを担う人材が人口減少などの理由で、より不足する可能性があります。



公共サービスをだれが支える？

教育、医療、警察、消防など、人が生活を営む上で必要な仕組みは、税金などをもとに運営されています。人口減少が進行すると公共サービスの縮小または、一人ひとりの負担が増える可能性があります。



10年後は名寄市外で暮らしたいな… **75%** (高校生)



できれば名寄市外に移りたいな… **38%** (20代)

(「人口減少対策に係るアンケート調査」より)

A2.

1911(明治44)年。最初の電話番号「1」は名取酒造店。4や9の希望者はなく、「42」は役場となりました。

Q3.

戦後の名残を感じるめずらしい長屋商業建築「二条市場」。現在営業中のお店は何店舗でしょう？(答えは10ページです)

あたたかく、いきいきとした

豊かな名寄をつくる

3つのプロジェクト

冬季スポーツ拠点化

自然環境と施設環境の強みを活かして、冬季スポーツの拠点になることを目指します。さらに市民が、スポーツを通じて名寄市に誇りと愛着を持てるようにしていきます。

合宿の誘致・支援

スポーツ大会の開催・誘致

生涯スポーツの推進

スポーツ施設の改修

名寄市立大学との連携

など

冬季スポーツ拠点化 プロジェクト

数値目標

合宿受け入れ数： 2,500人 → **5,000人**
新規冬季スポーツ大会誘致： 0 → **3**

安心子育てプロジェクト

数値目標

子育て環境や支援の満足 度が大変満足&満足と回答
就学前の子どもを持つ人： 38.3% → **43.3%**
小学生の子どもを持つ人： 24.3% → **35.0%**

名寄の魅力と課題を分析し、だれもが幸せに暮らせる名寄市をつくるために、複数の分野の連携による「重点プロジェクト」を設定しました。

経済
元気化

新しい産業の創出や地域ブランドを確立することで、地域経済の好循環を図り、雇用の場を増やしていきます。また、観光客を増やし、移住・交流を推進していきます。

名寄の特産物を売る

グリーンツーリズム

個性ある商店街づくり

起業化の支援

観光客の誘致

移住・交流の推進

など

安心子育て

子育てと仕事の両立を支援し、子育て家庭へのサポートを通じて安心して子どもを産み育てられる環境をつくります。

子育て世帯への支援

教育・保育環境の充実

地域での子育て力向上

放課後の育成サポート

ひとり親のサポート

など

経済元気化 プロジェクト

数値目標

観光入込客数： 474,000人 → **550,000人**
農商工連携・6次産業化品目数： 0品目 → **2品目**
創業・事業継承件数： 1件 → **2件**

※6次産業化とは、農家などの一次産業従事者が加工や販売も行うことを指します。

対談 名寄市長 × 名寄市立大学生

名寄市の強みとこれから

「いろいろな人が自分らしく生き、
地域の中で活躍している
街になってほしい」



上西： 今日はどうぞよろしくお願いします。まずは「総合計画」について教えてくださいいただけますか。

市長： 総合計画は10年という長期を見越して立てる、名寄市にとって最も大切な計画です。今回は2017～2026年の10年間。前回の10年(2007～2016年)とは、社会の状況が大きく変わってくる10年になると思っています。

上西： どんな風に変わるのでしょうか？

市長： 地方の人口はさらに減少し、都市に人口が集中していくと言われてます。ですから、いかに人口減少をゆるやかにしていくか、かつ、地域の活力が失われないようにするか、効率的・戦略的に考えなくてはなりません。そのためには、名寄の強みを活かし、そこに資源を集中して投入する必要があります。そこで、今回の総合計画では「重点プロジェクト」という柱をつくりました。経済・産業を活性化させること、安心して子育てができること、冬季スポーツの拠点化の3つで(8-9ページ参照)、5つの基本

目標と横断的につながり、重点プロジェクト同士も関連しあっています(12ページ参照)。

上西： それは、どういうことですか？

市長： 例えば「冬季スポーツ拠点化」でいくと、いま、アジアでは大きな冬季スポーツの大会が続いていますが、そのフィールドとして北海道が注目されています。「冬季スポーツと言えば名寄」という立ち位置が確立できれば、選手や指導者などはもちろん、名寄を訪れる方も増え、名寄の経済・産業の活性化につながると考えています。ジュニア選手の育成環境を整えていけば、子育て・教育環境の充実にもつながります。スポーツ環境が整い、生涯スポーツが定着していけば、市民の健康増進にもつながり、医療・福祉の視点からも有効だと思います。

上西： 個別に一つひとつ取り組むのではなく、3つのプロジェクトに力を入れることで波及効果がでるんですね。

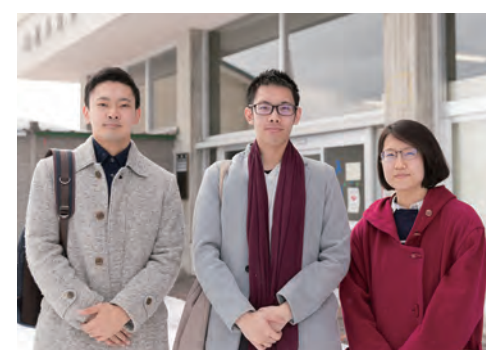
市長： また、近隣自治体との連携が重要になると考えています。名寄市が中心



となって地域全体を支え、それぞれの自治体が特色や強みを活かし、連携する。そうすることで「減っていくもの」をカバーし、道北全体がいろいろな魅力を持つ豊かな地域になると考えています。

上西： 僕は看護学部なので少し気になりますが、病院などもそうでしょうか？名寄市が道北地域の医療をカバーするのは、負担が大きすぎませんか？

市長： この地域の医療については、名寄市の責任は大きいと思っています。重篤な患者を対象とする高度医療・急性期医療の設備や人材は、やはり名寄市が中心となって、他の自治体にも負担をいた



(左から)

大山 和依： 遠軽町出身。看護学部3年生。軽音学部で仲間とともに音楽イベントも開催。

上西 伸生： 旭川市出身。看護学部3年生。「北の天文字焼 ギネス挑戦プロジェクト」の学生リーダー。

林川 恵美： 斜里町出身。社会福祉学科3年生。サークル「おばあちゃんといっしょ」発起人。

(肩書、内容は2017年3月現在)

だきながら整えていく必要があります。自治体同士が協力していかなければ、この地域の過疎化は一気に進むと感じています。また、医療分野でも役割分担が進んでいますので、すべてを名寄市が担うのではなく、名寄市は高度医療を守り、各自治体は地域事情に合った、市民密着型の病院・診療所を展開していくことが必要だと考えています。

大山： 名寄の強みについてですが、大学の図書館も新設され、エンレイホールもできて、文化的な部分が充実していますよね。

市長： そうですね。エンレイホールに一流のアーティストが来ることで、遠方からも人が来て経済効果にもつながっています。最近では、子どもたちによるオーケストラも結成されました。子どもたちには多くの才能や可能性が潜んでいるはずですので、できるだけいろいろな機会を提供したいですね。都会と違ってたくさんの方の選択肢を提供することは難しいですが、名寄の特色を活かした上質な体験をさせてあげたいです。

大山： 食も名寄の強みですよ。野菜ももち米もおいしいですし、飲食店もたくさんあります。

市長： はい。どこの野菜を食べても、



やっぱり名寄の野菜が一番だなと思っちゃいますね(笑)。名寄は冬が長くて雪も多いし、粘りが強い土質なので生産者の方はとても苦労されています。でも、だからこそ名寄でしか育たないとても質の高い農作物が作られていますし、それを活かしてくれるお店も増えてきましたね。食は市民の生活にとっても、観光や経済という視点からも重要です。みんなで一緒に盛り上げていって、応援していきたいですね。

林川： 障がい者福祉が充実している点も強みだと思います。ただ、障がいを持っている人たちがいきいきと学んで働くためには、施設や仕組みだけでなく、心のバリアフリーも大切ですよ。

市長： 差別や偏見なく、障がいを持つ方の気持ちに寄り添うことが大切です。皆さんは名寄の小学校の授業を見たことはありますか？

林川： ないです。

市長： 名寄の小学校は障がいがある子もない子と一緒に学んでいます。こういった環境は、心のバリアフリーにはとても有効ですよ。障がい者雇用を促進する「職親会」という組織も古くからあり、多様な人との共生については、理解が広がっていると感じています。障がいを持っている人が住みやすい街ということは、ほかの人たちにとっても住みやすいということになると思います。

林川： 市長が考える住みやすさとはどういったものですか？

市長： ある雑誌の「住みよさランキング」では、名寄市はいつも道内で上位にランクインします。公共サービス、医療・福祉、商業施設が充実しているからだと思います。これからはそういったハード



だけではなく、人とのつながりや自分らしく生きるというソフトな部分を充実させていくことで、さらに住みやすくなるようにしていきたいです。経済的な豊かさだけでなく、自己実現や人・地域とのつながりなど、いろいろなものが総合して、人は幸せと住みやすさを感じるのだと思います。

上西： 10年後の2026年、名寄がどんな街になってほしいですか？

市長： いろいろな視点からまちづくりを考えることができますが、やはり「人」について話したいですね。総合計画を実現するのも、名寄を豊かにしていくのも、実行していくのは結局「人」です。特に、大学は名寄市の宝です。学生が地域で活躍することで街の課題が改善され、私たち市民みんなが学生を応援していけるような仕組みができていてほしいです。また、総合計画の議論の中で市民の方から「私達のような高齢者を地域の力としてとらえてほしい」という言葉をいただきました。70歳、75歳を超えても、自分のペースで社会と関わりを持って働けることが理想です。10年後、若者も高齢者も障がいを持つ方も、多様な人が地域の中でいきいきと活躍している街になってほしいと願っています。

A3.

3店舗。かつては10以上の店がありました。1964年に火災に遭い、建て替えられています。

Q4. 名寄は国内外に友好都市が4つあります。どこでしょうか？

総合計画の全体像

2～3ページ

基本構想

基本理念

人づくり 暮らしづくり 元気づくり

将来像

自然の恵みと財産を活かしみんな^{まち}でつくり育む
未来を拓く北の都市・名寄

8～9ページ

基本計画

13ページ

基本目標 I

〈市民参画・健全財政〉

市民と行政との
協働によるまちづくり

1. 市民主体のまちづくりの推進
2. 人権尊重と男女共同参画社会の形成
3. 情報化の推進
4. 交流活動の推進
5. 広域行政の推進
6. 健全な財政運営
7. 効率的な行政運営

重点プロジェクト

元経済
化

基本目標 I・IV・V

14ページ

基本目標 II

〈保健・医療・福祉〉

市民みんなが
安心して健やかに
暮らせるまちづくり

1. 健康の保持増進
2. 地域医療の充実
3. 子育て支援の推進
4. 地域福祉の推進
5. 高齢者施策の推進
6. 障がい者福祉の推進
7. 国民健康保険

子育
安
心
て

基本目標 II・III・V

15ページ

基本目標 III

〈生活環境・都市基盤〉

自然と調和した環境に
やさしく快適で
安全安心なまちづくり

1. 環境との共生
2. 循環型社会の形成
3. 消防
4. 防災対策の充実
5. 交通安全
6. 生活安全
7. 消費生活の安定
8. 住宅の整備
9. 都市環境の整備
10. 上水道の整備
11. 下水道・個別排水の整備
12. 道路の整備
13. 地域公共交通

拠点
ス
ポ
ー
ツ
冬
季

基本目標 I・IV・V

16ページ

基本目標 IV

〈産業振興〉

地域の特性を
活かしたにぎわいと
活力のあるまちづくり

1. 農業・農村の振興
2. 森林保全と林業の振興
3. 商業の振興

4. 工業の振興
5. 雇用の安定
6. 観光の振興

17ページ

基本目標 V

〈教育・文化・スポーツ〉

生きる力と豊かな
文化を育むまちづくり

1. 幼児教育の充実
2. 小中学校教育の充実
3. 高等学校教育の充実
4. 大学教育の充実
5. 生涯学習社会の形成
6. 家庭教育の推進
7. 生涯スポーツの振興
8. 青少年の健全育成
9. 地域文化の継承と創造

基本目標

I

〈市民参画・健全財政〉

市民と行政との協働によるまちづくり

1. 市民主体のまちづくりの推進

名寄市自治基本条例の理念を尊重し、多様な団体や市民と連携・協力したまちづくりを推進し、必要な支援を行います。行政情報の提供・共有を通じて市民の市政参加を促します。

2. 人権尊重と男女共同参画社会の形成

名寄市男女共同参画推進条例を推進し、性差に関係なくお互いの人権を尊重し、個性や能力が発揮できる地域社会をつくります。

3. 情報化の推進

ICT（情報通信技術）を有効に活用し、市民の利便性を高めつつコスト削減を目指します。同時にセキュリティシステムも強化していきます。

4. 交流活動の推進

国内外の自治体・団体との交流を通じ、魅力あるまちづくりを推進します。近隣自治体や民間との連携により移住促進にも取り組みます。

5. 広域行政の推進

北・北海道の中心市として、広域的な地域振興のリーダーシップを発揮します。また、上川北部唯一の総合病院がある自治体として、関係市町村との連携を強めます。

6. 健全な財政運営

限られた財源の中で、適切な事業の選択と基金や公債費の管理のもとに、弾力性のある持続可能な財政運営を目指します。

7. 効率的な行政運営

適切な評価と検証・必要に応じた見直しを行い、総合計画を着実に推進するとともに、簡素で効率的な組織づくりに努めます。施設の複合化や民間活力の活用も図ります。

まちを楽しむ STEP.1

情報を集めよう！

まずは名寄のことを知しましょう。広報「なよろ」は町内会の回覧板だけではなく、コンビニや駅前交流プラザ「よろーな」などの公共施設でも手にとることができます。



A4.

カナダ・カワーサレイクス市リンゼイ、ロシア・ドーリンスク市、東京都杉並区、山形県鶴岡市。市内にはリンゼイ通り、ドーリンスク通りという道があります。

Q5. 世界一小さい国・バチカン。バチカンと名寄はどちらが大きいでしょうか？

基本目標

II

〈保健・医療・福祉〉

市民みんなが安心して
健やかに暮らせるまちづくり

1. 健康の保持増進

心豊かに元気で生活できる環境をつくり、市民の生涯を通じた健康づくりを推進し、健康寿命を延ばしていきます。疾病予防と感染症のまん延防止対策も充実させます。

2. 地域医療の充実

地域の医療機関の連携を深め、切れ目なく必要な医療が提供される体制をつくります。安定的な医療の供給体制の整備と強化を図り、地域医療を充実させます。

3. 子育て支援の推進

安心して産み育てることができ、こどもが平等で健やかに育つ環境づくりを地域ぐるみで進めます。発達の遅れや障がいのあるこどもの早期発見・療育ができる体制を強化していきます。

4. 地域福祉の推進

お互いに助け合える地域づくりに努め、だれもが住みやすく、安心して暮らせるまちを目指します。関係機関と連携し、生活に困っている人の支援や自立を促進します。

5. 高齢者施策の推進

住み慣れた地域で、能力に応じて自分らしい生活を続けられるように、介護サービス・介護予防・生活支援などを包括的にサポートします。

6. 障がい者福祉の推進

障がい児・者の相談支援体制を構築し、だれもが安心して暮らせるように地域の支援体制を充実させます。障がい者の権利を守り、差別をなくす取組も進めます。

7. 国民健康保険

市民が安心して医療を受けられるよう、国民健康保険制度の安定運営を図り、医療費の適正化に取り組めます。

まちを楽しむ STEP.2
イベントに行こう！

名寄では毎週のようにイベントが行われます。夏にはてっしフェスティバルや風連ふるさとまつり、産業まつりなどが、冬には各種冬季スポーツ大会や雪質日本一フェスティバルなどがあります。小規模のイベントやセミナーも開かれていますので、気軽に足を運んでみましょう。



基本目標

III

〈生活環境・都市基盤〉

自然と調和した環境にやさしく快適で
安全安心なまちづくり

1. 環境との共生

自然環境の保全と環境汚染の防止など環境問題に対応していきます。

2. 循環型社会の形成

廃棄物の収集・処理・処分を効率的に行い、減量化の啓発と環境美化に取り組みます。

3. 消防

消防力の強化を図り、医療機関と連携し、特殊救急事故の発生にも備えます。

4. 防災対策の充実

大雨・豪雨による河川の氾濫の浸水被害に備え治水対策を推進します。市民の防災意識の向上により自助・共助による避難対策を充実させます。

5. 交通安全

幼児から高齢者まで交通安全意識の啓発に努め、交通環境の整備を図ります。

6. 生活安全

防犯に向けた情報提供と対策に努めます。空き家の利活用と適正管理も促します。

7. 消費生活の安定

消費生活の機能と情報提供の充実など、消費生活の向上を図ります。

8. 住宅の整備

市民のニーズに対応した計画的な公営住宅の整備や維持管理、民間住宅の耐震化を支援します。

9. 都市環境の整備

人口減少を見据えて公園の維持管理をはじめ都市・居住機能の集約化などを推進します。

10. 上水道の整備

安定供給を確保するために水道施設を適正に管理し、経営の健全化を進めます。

11. 下水道・個別排水の整備

下水道施設を効率的に維持管理し、個別排水処理施設も整備していきます。

12. 道路の整備

道路環境整備や雪に強い除排雪体制をつくります。

13. 地域公共交通

鉄路の維持確保に向け、沿線自治体、関係機関・団体と連携を図ります。バスなどの公共交通の安定確保に努めます。

A5.

名寄。名寄市は535㎢でバチカンが0.447㎢です。グアムが549㎢と名寄とほぼ同じ大きさです。

Q6.

今はもうなくなってしまった、名寄の産業には何があるでしょう？
(答えはたくさんあります)

基本目標

IV

〈産業振興〉

地域の特性を活かした
にぎわいと活力のあるまちづくり1.
農業・農村の振興

農業基盤の計画的な整備や担い手の育成確保、ICT化による効率化を進めます。農畜産物の付加価値向上に向けて商工業者や大学と連携し、都市へ情報発信や地産地消を推進します。

2.
森林保全と林業の振興

木材生産や水源確保、災害防止など多くの役割を担う森林を保全し、林業の担い手を育成します。民有林の造林を進め、市有林は計画的な伐採と植林を進めていきます。

3.
商業の振興

商業の振興を推進し、経営基盤を強化する支援策や機能強化を図ります。空き店舗対策や農林業と連携した商品開発、流通機能の維持、市内農産物の安定供給も図ります。

4.
工業の振興

地場企業の経営基盤を強化する支援制度を充実します。新製品・技術の研究開発や、異業種交流、産学官連携の体制づくりを推進します。企業誘致のPRも図ります。

5.
雇用の安定

若年者の就職支援と離職防止、中高齢者や障がい者の就労支援や通年雇用化を推進します。非正規労働者の労働条件の向上や、勤労者の福利厚生などの向上に努めます。

6.
観光の振興

観光資源の発掘や商品開発を推進し、自然や文化を活かして観光客の誘致を行います。国内外へのPRやイベントの企画により交流人口を拡大します。

まちを楽しむ STEP.3

ボランティアに参加しよう！

名寄のイベントはたくさんのボランティアの方々に支えられています。慣れてきたら、今度は企画運営スタッフとして参加してみませんか？スタッフやブースの出店者に声をかけてみましょう。福祉活動に関しては、社会福祉協議会の窓口でボランティア登録をすると定期的に情報が届きます。



A6.

酒造、名寄川の天然氷、スキー板製造、製麻（亜麻から繊維をとる）、薬用人参製造など。名寄で製造していた酒は「名寄泉」「大海」の2種。

基本目標

V

〈教育・文化・スポーツ〉

生きる力と豊かな
文化を育むまちづくり1.
幼児教育の充実

質の高い教育の提供と、小学校教育への円滑な接続・移行に努めます。また、平等に幼児教育が受けられるように助成支援に努めます。

2.
小中学校教育の充実

社会の変化に合わせ、生きる力を育てる教育、特別支援教育、国際理解教育、情報教育などを充実させます。教職員の資質向上や地域から信頼される特色ある学校づくりを進めます。

3.
高等学校教育の充実

高等学校の再編整備にあたり、関係機関と連携を図り、地域を担う人材を育成する魅力ある高校づくりに向けた支援体制を充実させます。

4.
大学教育の充実

長期的視野に立った大学運営、地域性を重視した高等教育機関として施設の整備・充実を図ります。地域社会の発展に寄与する教育研究を行い、市民に開かれた大学づくりに努めます。

5.
生涯学習社会の形成

市民が生涯にわたって主体的に学び、心豊かな人生を送れるように、生涯学習プログラムの推進など、環境の充実に努めます。

6.
家庭教育の推進

家庭教育学級の開設や家庭教育支援講座を開催し、親子のコミュニケーションを深める学習の機会を提供します。子育てに配慮した環境をつくるために、企業への啓発も進めます。

7.
生涯スポーツの振興

地域連携による合宿・大会誘致を推進し、競技力向上と交流人口を拡大して地域活性化に努めます。また「市民皆スポーツ」を実現するためにスポーツ環境を充実させます。

8.
青少年の健全育成

青少年が心身共に健やかに成長し社会の一員としての人間性や自立性を持ち、生きる力を身につけられるように、体験活動・地域交流・ボランティア活動の推進に努めます。

9.
地域文化の継承と創造

市民が感動や生きる喜びを感じ、創造力にあふれる豊かな人生を送れるように、文化振興の基盤整備、機会の提供、文化の創造と団体の育成に努めます。

全問正解したら、なよろ博士！「答え」に出てきた場所を一度おとずれてみましょう！